



全日畜だより

第 57 号

2024 年 1 月 5 日

<https://www.alpa.or.jp/>

新年あけましておめでとうございます

2024 年、辰年を迎えて、皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類に移行し、人の移動や集まりが活発になりました。

また、インバウンドも戻ってきて、日本国内外の経済活動が徐々に戻ってきました。しかし、私たち牛豚鶏を飼っている者が一番気にかかっているエサ代については、トウモロコシがブラジルの豊作や米国産の順調な生産予想によって、シカゴ相場が4ドル台まで下がってきたものの、依然として円安が続き、パナマ運河の通過規制による海上輸送費の値上



げなどに起因して、配合飼料価格がまた値上げとなるなど、厳しさは変わらない年でした。世界情勢も、ロシアによるウクライナ侵攻がまだ続いている中で、イスラエル・パレスチナの衝突が発生してスエズ運河までも安心して通れなくなり、食料、肥料、エネルギーの供給不安や値上げへの不安が増す、まだまだ厳しい年でした。

しかし、昨年11月に政府が出した「デフレ完全脱却のための総合経済対策」では、地方創生臨時交付金のうち、地方公共団体が地域の実情に応じて柔軟に活用できる「重点支援地方交付金」において支援してきている事業者には、「飼料等を使用する農林水産事業者」と書かれていて、それを支援するための交付金の追加が行われました。これを使って都道府県独自の畜産業への対策も行われております。このような中、全日畜としましても、いろいろな情報を皆さんに伝えるとともに、畜産物生産の現状や、生産者の皆さんの意見、要望を行政、政治に届ける活動を続けて、皆さんにとって、明るく将来に希望の持てるようになる活動を続けていきたいと思っております。

本年は甲辰(きのえたつ)の年です。「甲」は草木などが生長していくことを表し、「辰」も草木が盛んに成長し形が整った状態を表しています。皆様におかれましても、今年はこの辰年にあやかっ、我慢の年から発展の年となることをお祈りいたします。

全日畜理事長 金子春雄

昨年（令和5年）の主な全日畜活動を振り返りました

◎ 全日畜 第15回定時社員総会を開催(6月15日) 第八期の社員体制及び役員体制を決定

今回は4年ぶりに会場に関係者が集まって開催できました。しかし、協会の身の丈に合った開催規模にすべきとのご意見並びにコロナ開け直後であることから、貸し会議室で、規模を若干縮小した開催となりました。

総会では、令和4年度の事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書及び令和5年度会員の入会金及び会費が承認されました。

また、今期は役員の改選期に当たり、第8期役員が全員留任で選任され、総会后に今年度第2回理事会を開催し、理事長に金子春雄、常務理事に鈴木一郎を引き続き選任しました。



(写真：開会で挨拶する全日畜の金子理事長)



(写真：祝辞を述べる高橋工業会専務理事)

◎ JRA 事業の「多角化」「危機克服」の2事業を実施

昨年度から実施している「多角化による畜産経営強化調査事業(多角化事業)」は6次産業化をはじめとした多角化経営を成功させるためのノウハウ、失敗しないための留意事項などを記述した「指針」を作成し、多角化経営に進出する場合の失敗を避けるとともに、健全な経営の多角化を推進しようとするものです。そのためのワークショップを熊本市(10月31日)と帯広市(11月21日)で実施しました。



(写真：熊本会場)

また、今年度から新たに「畜産経営の危機克服・持続のための実態緊急調査事業(危機克服事業)」を実施し、畜産経営存続が危機的な状況の中で、その危機により受けた影響及び対応状況、政府施策の畜産経営者への貢献度等を調査して、「危機対応事例集」を作成します。そのためのワークショップを、福島市(9月12日)、さいたま市(10月20日)、広島市(11月16日)で開催しました。



(写真：福島会場)

◎ alic 事業「低コスト配合飼料自家製造推進事業」の実施

令和4年度に自家配合飼料を利用した生産者に対し、全国団体を通じて、自家配合に使用した単体トウモロコシ等に、1トンあたり1200円を支援する事業です。全日畜は、他の全国団体に加入していない生産者や、何らかの理由で他の全国団体に申請できない全日畜会員に対して、事業実施主体となって申請の受け皿となりました。

(文中での団体の略称標記について)

- 全日畜：一般社団法人 全日本畜産経営者協会
- 全日基：一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金
- 工業会：協同組合 日本飼料工業会
- 〇〇県基金協会：一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会